

消防年報

平成27年版



二宮町消防本部

まえがき

この消防年報は、消防行政の合理的な運営と、消防力の充実強化のための資料とし、あわせて、二宮町の消防現勢と平成26年中及び近年中における火災の実態や、消防、救急そして救助活動などの現状等について、消防関係者はもとより広く町民の方々にも紹介して、消防行政に対するご理解、ご協力をいただくとともに、防火思想と救急知識の高揚を図ることを目的として作成したものです。

本町の消防を知っていただく手がかりとして、また、火災や救急、救助そしてその他の災害予防のために少しでもお役にたてれば幸いです。

平成 27 年 9 月

二宮町消防本部

町民憲章

昭和53年7月5日制定

わたくしたちは、美しい自然に恵まれた「長寿の里」二宮の町民であることに誇りと責任をもって、より明るく豊かな町づくりのために町民憲章を定めます。

1. 郷土を愛し、自然をいかすきれいな二宮町をつくりましょう。
2. ふれあいを深め、ことばをかけあうさわやかな二宮町をつくりましょう。
3. きまりを守り、良習をはぐくむ住みよい二宮町をつくりましょう。
4. 幸せを願い、健やかな明るい二宮町をつくりましょう。
5. 教養を高め、文化のかおる豊かな二宮町をつくりましょう。

町の鳥

平成23年1月5日制定



『ヤマガラ』
常緑広葉樹林を好み、人懐っこく親しみやすい鳥で町が目指す自然豊かな心のふるさと「里山」のシンボルにふさわしい鳥です。

町の木

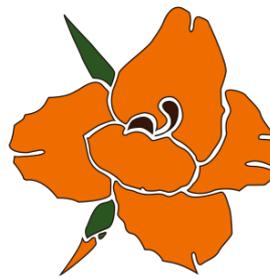
昭和48年11月3日制定



『つばき』
古くから武士や高貴な身分の人々にめでられ品種も多くさし木などで簡単にふやせます。町の中にも多く親しみの深い木です。

町の花

昭和48年11月3日制定



『カンナ』
明治の末に渡来した花で、生命力が強く、赤や黄と色もあざやかです。他の花の少なくなった頃に咲き出して町の中を明るくします。

目 次

二宮町の概要

◇概要	1
位置と地勢	1
人口の推移	2
◇消防の予算	3
町予算と消防予算との比較	3
消防予算額の内訳	3
消防費の人口比	3
◇消防のあゆみ	4

消防の現況

◇消防力の現況	9
職員の定員と実員	9
消防勢力	9
◇消防の組織	10
組織図	10
歴代消防長・消防団長	10
消防本部の仕事	11
消防署の仕事	11
消防庁舎の概要	11
消防ポンプ車等配置状況	12
消防配置図	13
平成26年度の主要行事	13
◇消防職員	14
消防職員年齢	14
消防職員勤続年数	14
消防職員居住地状況	14
◇消防団	15
消防団員の定員と実員数	15
消防団員の内訳とポンプ台数	15
消防団員勤続年数	15
消防団員年齢	16
消防団員の職業構成と就業形態	16
消防団員報酬	16
◇消防職員・団員受賞歴	16

火災予防

◇火災予防	17
火災予防条例に基づく届出状況	17
(1)各種届出状況	17
(2)防火対象物使用開始届出状況	18
消防用設備等設置届出状況	19
防火管理者届出状況	20
中高層建築物一覧表	21
用途別の消防同意処理状況	22
◇危険物	23
危険物製造所等の区別設置件数の推移	23
危険物製造所等における危険物の貯蔵及び取扱量	23
倍数別危険物製造所等の設置状況	24
危険物製造所等に係る申請及び届出の状況	24
◇査察	25
(1)危険物製造所等に対する査察等の実施状況	25
(2)防火対象物に対する査察実施状況	26
(3)消防用設備等に対する完成検査実施状況	27

消防の活動

◇火災概要	28
火災の発生状況(過去10年間)	28
月別火災発生状況	29
◇消防隊の出場状況(火災・救急出動は除く)	30
月別救助・警戒・救急支援出場状況	30
月別応援火災・救急・救助等出場状況	30
◇救急	31
救急出場件数推移	31
月別救急活動状況	32
曜日別救急発生状況	33
時間別救急発生状況	33
事故種別不搬送件数	34
地区別出場件数	34
覚知別、交通事故の道路別出場件数	34
所要時間別出場件数と搬送人員	34
傷病程度と年令別搬送人員	35
応急処置等実施状況	35
応急手当講習会等の実施状況	36

◇通信	37
通信系統図	37
◇災害出動体制	38
救助出動体制	38
水防(自然災害)出動と体制	39
緊急消防援助隊	39
消防相互応援協定	39
◇消防水利	40
消防水利の現勢調	40
◇気象	41
月別気象状況	41
気象予報等発表状況調(横浜地方気象台発表)	42
過去5年間の気象	42

二宮町の概要



平成 27 年 11 月 3 日に二宮町は
町制施行 80 周年を迎えます。



◇ 概要 ◇

二宮町は最初、師長(しなが)国に属する霜見という地名で呼ばれた東国の一山村でしたが、大化の改新(645年)で国、郡、里の制がとり入れられると相模国に合併されました。

また、その頃、級津彦命(しなつひこのみこと)などをまつる川勾神社が、寒川神社の相模国「一の宮」に対し「二の宮」と称され、地域の鎮守として多くの人々から信仰されました。この頃から霜見も含めてこの地方が「二宮」と呼ばれるようになりました。

江戸時代には、幕府直轄地となって、一色、中里、二宮、山西、川勾の五カ村による村制が施行され東海道の間の宿場として賑わいました。

明治22年に市町村制が施行され、五カ村が合併し吾妻村となって、同年東海道本線の開通、明治35年には二宮駅の開設と発展し、昭和10年11月、町制の施行で二宮町となりました。

昭和40年代からは、気候温暖で山と海に囲まれたなだらかな丘陵が住宅地として人気を集め、住宅の造成も急速に進められ年々人口が増加しました。

昭和57年には二宮駅舎が改良され、町の玄関が一新するとともに、道路、公園、体育館など公共施設の建設が進められて来ました。

現在は、公共下水道をはじめとする生活基盤の整備も進めており、よりよい住環境の実現のため新しいまちづくりを推進し、町制施行時半農半漁ののどかな村であった二宮町は、穏やかな気候、風土があいまって住みよい湘南の住宅地として発展しながら現在に至っています。

▼ 位置と地勢 ▼

二宮町は、神奈川県南西部に位置し、東経139度15分18秒北緯35度18分17秒(消防本部)に位置し、東京から約70kmの所にあり、東は大磯町、北は丹沢連峰を背に中井町、西は中村川を挟んで小田原市に隣接、南は相模湾に臨んでいます。

町の東西に東海道本線、東海道新幹線、国道1号線、西湘バイパスと小田原厚木道路が走り、南北に県道秦野二宮線があつて、それぞれ町道と連結し交通至便なところです。

町全体の形状は、おおよそ三角形で南部に広く東西の幅3.3km、北に進むに従って狭く南北に3.8km、総面積は9.08km²で、地形的には山地部と平野部のバランスがとれていて、東西に分裂するかのよう2級河川の葛川が流れています。

気候は、冬暖かく夏涼しく、豊かな自然と新鮮な海の幸・山の幸に加え、純朴な風土と素晴らしい生活環境です。



▼ 人口の推移 ▼

《各年別》

各年4月1日現在

項目 年別	世帯数	人 口			1 世 帯 当 り の 人 口	人口密度 (人/km)	人口指数 (昭和61年 =100)
		計	男	女			
昭和61年	8,445	28,890	14,230	14,660	3.42	3,224	100.0
平成 3年	9,142	29,416	14,395	15,021	3.22	3,283	101.8
平成 8年	10,169	30,567	15,020	15,547	3.01	3,411	105.8
平成13年	10,941	30,776	15,099	15,677	2.81	3,435	106.5
平成18年	11,028	30,078	14,588	15,490	2.73	3,313	104.1
平成19年	11,113	29,832	14,460	15,372	2.68	3,285	103.3
平成20年	11,143	29,591	14,339	15,252	2.66	3,259	102.4
平成21年	11,274	29,578	14,317	15,261	2.62	3,257	102.4
平成22年	11,388	29,633	14,375	15,258	2.60	3,264	102.6
平成23年	11,475	29,514	14,294	15,220	2.57	3,250	102.2
平成24年	11,438	29,325	14,217	15,108	2.56	3,230	101.5
平成25年	11,477	29,152	14,131	15,021	2.54	3,211	100.9
平成26年	11,514	28,870	13,978	14,892	2.51	3,180	99.9
平成27年	11,538	28,594	13,799	14,795	2.48	3,149	99.0

《地区別》

各年4月1日現在

項目 地区別	平 成 27 年		平 成 26 年		平 成 25 年	
	人 口	世帯数	人 口	世帯数	人 口	世帯数
合 計	28,594	11,538	28,870	11,514	29,152	11,477
一 色	879	308	867	297	889	300
百合が丘	3,797	1,727	3,891	1,750	3,954	1,747
中 里	3,320	1,315	3,280	1,288	3,296	1,279
富士見が丘	3,167	1,248	3,207	1,238	3,222	1,232
二 宮	7,814	3,267	7,860	3,262	7,914	3,239
松 根	487	175	502	179	498	176
山 西	6,300	2,504	6,391	2,506	6,430	2,509
川 匂	647	232	655	231	661	229
緑 が 丘	2,183	762	2,217	763	2,288	766

☆ 平成22年度国勢調査結果を基礎数値としています。

◇ 消防の予算 ◇

▼ 町予算と消防予算との比較 ▼

平成27年度の一般会計当初予算額7,788,000千円(前年度対比2.5%増)のうち消防費の当初予算額は396,600千円(前年度対比8.6%減)で、一般会計当初予算額に占める割合は、5.1%となっています。

区 分 \ 年 度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
一 般 会 計 予 算 額	7,788,000 千円	7,600,000 千円	7,710,000 千円
消 防 予 算 額	396,600 千円	433,900 千円	421,800 千円
比 率	5.1%	5.7%	5.5%

▼ 消防予算額の内訳 ▼

内 訳	金 額	構 成	前年度比
消 防 費	396,600 千円	100.0%	▲ 37,300 千円
常 備 消 防 費	372,500 千円	93.9%	▲ 39,100 千円
非 常 備 消 防 費	24,100 千円	6.1%	1,800 千円

▲は減額

▼ 消防費の人口比 ▼

当 初 予 算 額	1 世 帯 当 たり	人 口 1 人 当 たり
一 般 会 計 予 算 額	7,788,000 千円	674,987 円
消 防 予 算 額	396,600 千円	34,373 円

※国勢調査を基礎とした世帯数及び人口(H27年4月1日現在 世帯数:11,538世帯 人口:28,594人)

◇ 消防のあゆみ ◇

明治 12年	一色村に消防器具を備えた消防体制が整備される。
明治 17年	一色村に私設消防組が誕生。
明治 25年	中里地区に私設消防組が誕生し、その後二宮、梅沢、山西の各地区に消防組誕生。
明治 37年	公設消防組を設置。(一色、中里、二宮、山西の各消防組)
大正 12年 9月	関東大震災発生。圧死21名、焼死4名、重傷者26名、全焼6戸、全壊406戸、半壊364戸、罹災人員4,716人。
昭和 6年	二宮消防組の手押ポンプを廃し、ガソリンポンプに切替。
昭和 10年 10月	葛川氾濫による水害発生。流失6戸、半壊4戸、床上浸水137戸、床下浸水155戸、道路欠損39ヶ所、橋流失17ヶ所、罹災人員1,639人。
昭和 12年 9月	各地区消防組を統一、二宮消防組となる。
昭和 14年 4月	二宮町警防団となる。(警防団員431名)
昭和 15年 1月	南口駅前大火発生。全焼69戸、半焼4戸、焼失棟数106棟、罹災人員374名。
	1月 第1分団に消防ポンプ自動車を配置。
昭和 16年 7月	葛川氾濫による水害発生。流失9戸、床上浸水124戸、罹災人員 2,940人。
昭和 23年 4月	消防組織法が施行され、自治体消防として消防団を設置。(4ヶ分団、消防団員258名)、二宮町消防団条例、規則、服務規程等を制定。
昭和 24年 6月	二宮町火災予防条例を制定。
昭和 27年 5月	第1回全国消防大会開かれる。
昭和 29年 4月	第2分団区域を2区域に分割、第2、第3分団とし、従来の第3、第4分団をそれぞれ、第4、第5分団と名称を変えて5個分団に組織替えし、1個分団20名編成となる。(団員数103名)
	11月 第3分団消防車庫を新築、同分団に消防ポンプ自動車、第4、第5分団に小型動力ポンプと積載車を配備。
昭和 30年 7月	県営水道が開通、消火栓を設置。
	10月 第2分団に消防ポンプ自動車を配備。
昭和 32年 8月	二宮町消防団員等公務災害補償条例・規則を制定。 第7回神奈川県消防操法大会に第2分団消防ポンプ自動車が出場。
昭和 33年 3月	(財)日本消防協会より表彰、竿頭綬を受ける。
	7月 二宮町消防団条例・規則を改定。
昭和 34年 11月	第1分団の消防ポンプ自動車を更新。
昭和 35年 8月	第10回神奈川県消防操法大会に第1分団消防ポンプ自動車が出場。
昭和 36年 9月	電話自動化により火災専用電話(119番)を役場に設置。
	12月 第4、第5分団の小型動力ポンプ更新。
昭和 37年 3月	消防庁長官より表彰、竿頭綬を受ける。
	7月 二宮町火災予防条例を改正。
昭和 38年 9月	第13回県消防操法大会に第5分団小型動力ポンプが出場。
昭和 39年 3月	第2分団消防車庫を新築。

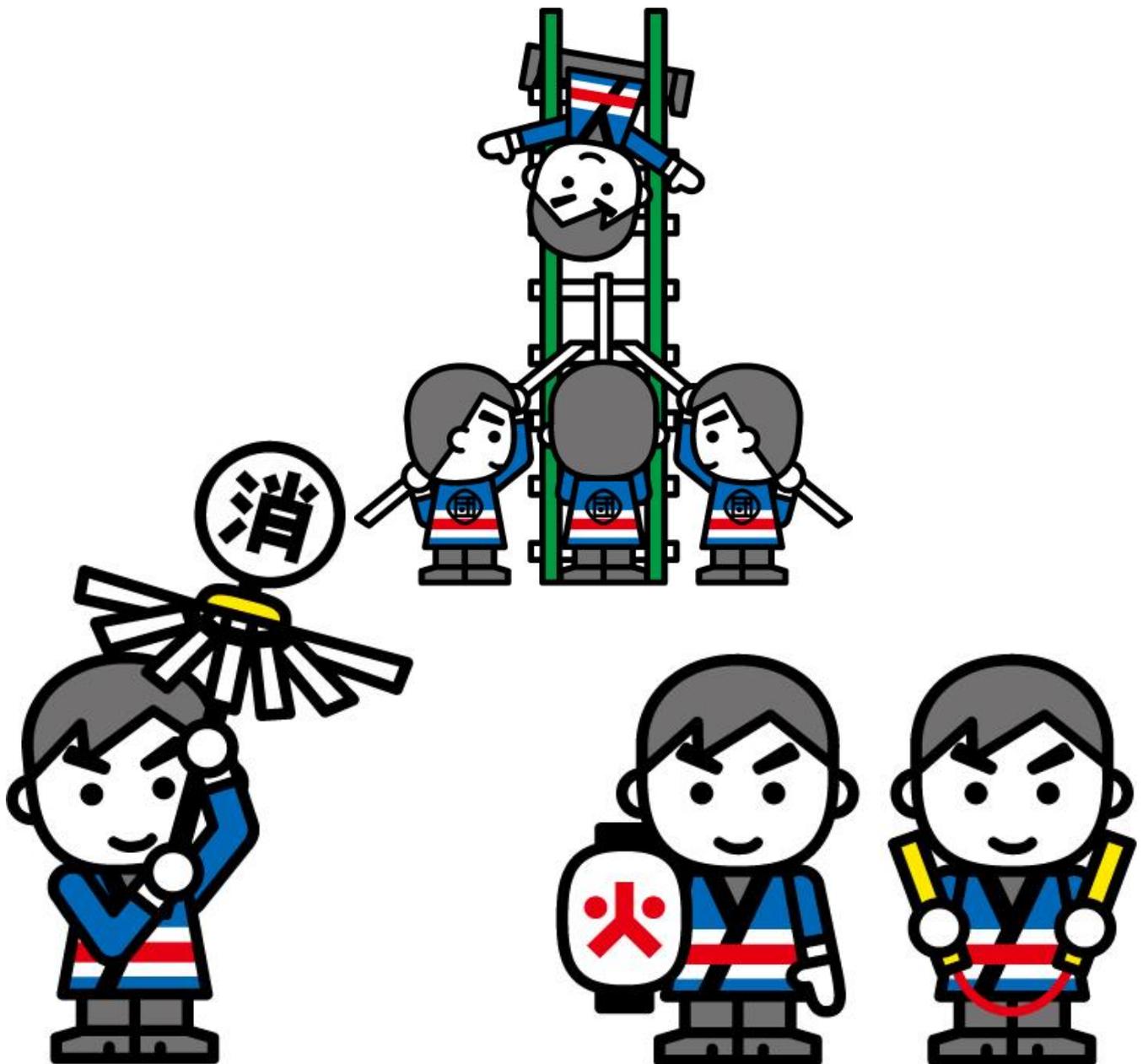
- 昭和 39年 3月 二宮町消防団員退職報償金制度が確立され、市町村の支給責任の共済制度を設ける。
二宮町非常勤消防団員に係る退職報償金支給条例を制定。
- 昭和 41年 1月 第4分団消防車庫を新築。
10月 第16回県消防操法大会に第4分団小型動力ポンプが出場。
12月 第4分団に消防ポンプ自動車を配置。(BS- I 型)
- 昭和 42年 1月 第5分団消防車庫を新築。
12月 第5分団に消防ポンプ自動車を配置。(BS- I 型)
- 昭和 43年 3月 第1分団消防車庫を新築。
3月 自治体消防発足20周年。
(財)日本消防協会より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
4月 二宮町非常勤消防団員退職報償金支給条例施行規則及び二宮町消防団員
服務規程を制定。
8月 二宮町火災予防条例施行規則を制定。
10月 第1回二宮町消防操法大会開催。
- 昭和 44年 10月 第2回二宮町消防操法大会開催。
第19回県消防操法大会に第3分団消防ポンプ自動車が出場。
- 昭和 45年 3月 消防庁長官より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
12月 第3分団消防ポンプ自動車(水槽付)を更新。
- 昭和 46年 3月 二宮町課等設置条例の一部を改正し従来の総務課消防係より、4月1日
付をもって消防課の設置を議決。
4月 県消防学校教官山崎勝也氏の派遣を受け、1年間の創設業務と職員の教
養指導を行う。
6月 二宮町消防職員の特殊勤務手当に関する条例の制定。
8月 神奈川県より救急車(トヨタMS66VY) 寄贈。
8月 第21回県消防操法大会に第2分団消防ポンプ自動車が出場。
9月 二宮町救急業務規則、二宮町消防職員の勤務時間等規則を制定。
救急業務開始(6日)。山崎消防課長以下職員15名。
11月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈。(BD- I 型)
12月 第2分団消防ポンプ自動車を更新。(BS- I 型)
二宮町消防本部及び消防署の設置等に関する条例、二宮町消防賞じゅつ
金条例・規則の制定。
- 昭和 47年 1月 二宮町消防本部組織規則のほか、常備消防として必要な規則、規程を
制定。
2月 二宮町消防本部・消防署を設置。(職員20名 定員28名)
消防署、水槽付消防ポンプ自動車を配置。(水- I B型)
8月 第22回県消防操法大会に第1分団消防ポンプ自動車が出場。
- 昭和 48年 1月 屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入。(15m級)
3月 第3分団消防車庫を新築。
4月 消防職員定数33名となる。

- 昭和 48年 8月 第23回県消防操法大会に消防署が屈折はしご付消防ポンプ自動車基準操法で出場。
- 11月 自治体消防発足25周年記念式を行う。
- 昭和 49年 2月 消防署に台車付小型動力ポンプ配置。
- 4月 消防署に緊急工作車(小型動力ポンプ積載)を配置。
- 8月 第24回県消防操法大会に第5分団消防ポンプ自動車が出場。
- 9月 第1分団消防ポンプ自動車を更新。(BS- I 型)
- 昭和 50年 9月 消防署車庫増築。
- 昭和 51年 4月 消防本部組織を一部変更、警防係を分割し予防係を新設。
- 8月 第26回県消防操法大会に第4分団消防ポンプ自動車が出場。
- 9月 藤田観光(株)より救急車の寄贈。
- 昭和 52年 9月 消防団条例改正審議始まる。
- 昭和 53年 3月 自治体消防発足30周年記念式を行う。
- 3月 消防団条例改正、議会で可決。
- 4月 消防団員103名から78名に減員。
- 8月 第28回県消防操法大会に第3分団が出場し、最優秀賞。
- 10月 全国消防操法大会に二宮町消防団として第3分団が出場。
- 昭和 54年 7月 消防署指令車更新。
- 昭和 55年 8月 第30回県消防操法大会に第2分団が出場。
- 昭和 56年 2月 二宮町防災備蓄倉庫落成。
- 11月 第4分団小型動力ポンプ更新。
- 昭和 57年 2月 (財)日本消防協会特別表彰「まとい」受賞。
- 3月 二宮町消防本部・消防署創設10周年及び日本消防協会特別表彰「まとい」受賞の記念式典を行う。
- 7月 第1・第2・第3分団小型動力ポンプを配備。
従来からの第4・第5分団を含み全分団配備する。
- 8月 第32回県消防操法大会に第1分団が出場。
- 11月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。
- 昭和 58年 6月 第5分団車庫移転、新築。
- 8月 第33回県消防操法大会に消防署が応用操法に出場。
- 10月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)
- 昭和 59年 8月 第34回県消防操法大会に第5分団が出場。
- 昭和 60年 3月 消防署救急車更新。
- 10月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)
- 昭和 62年 3月 (財)日本消防協会より表彰第2回目の竿頭授受ける。
- 9月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈。(BD- I 型)
- 11月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)
- 昭和 63年 7月 消防署指令車更新。
- 8月 第36回県消防操法大会に第4分団が出場し、優秀賞。
(財)日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車寄贈。
- 平成 元年 10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)

- 平成 2年 7月 消防署救急車更新。
- 平成 3年 8月 消防署資機材搬送車を購入。
9月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)
- 平成 4年 4月 消防職員定数34名となる。防災担当職員1名町より派遣。
7月 第38回県消防操法大会に第3分団が出場。
9月 はしご付消防ポンプ自動車購入。(15m級)
- 平成 5年 4月 消防職員定数36名となる。
- 平成 6年 4月 消防職員定数37名となる。
11月 救急救命士1名配置。
- 平成 7年 1月 阪神・淡路大震災に救助隊を応援派遣。
11月 高規格救急自動車を購入。救急救命士1名配置(全2名)
- 平成 8年 4月 消防職員定数38名となる。
7月 第40回県消防操法大会に第2分団が出場。
12月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。(水- I B型)
- 平成 9年 4月 防災係、総務部総務課へ移行。消防職員1名派遣。
消防本部組織を一部変更、消防課を新設、1課3係となる。
救急救命士1名配置。(全3名)
11月 救急救命士1名配置。(全4名)
- 平成 10年 3月 庁舎増設部完成、緊急情報システム更新。(I型)
10月 庁舎既存部耐震補強工事完成。
11月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)
12月 財日本消防協会へ第4分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
第4・第5分団小型動力ポンプ更新。
- 平成 11年 9月 第2・4分団車庫耐震補強工事完了。
11月 救急救命士1名配置。(全5名)
- 平成 12年 7月 第42回県消防操法大会に第1分団が出場。
8月 消防団無線を整備。(団本部・分団車両・携帯無線機)
12月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)
- 平成 13年 1月 財日本消防協会へ第5分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
3月 高規格救急自動車を日本自動車工業会から寄贈される。
3月 高度救命資器材等を整備。
- 平成 14年 2月 消防署消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型・災害対応特殊仕様)
- 平成 15年 10月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)
11月 救急救命士1名配置。(全6名)
12月 財日本消防協会へ第3分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 16年 7月 第44回県消防操法大会に第5分団が出場。消防署積載車更新。
- 平成 17年 4月 消防職員定数46名となる。消防職員2名採用する。
10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD- I 型)
12月 財日本消防協会へ第2分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 18年 4月 消防職員3名採用する。
平塚市消防本部と職員交流実施、1名派遣。
救急救命士1名配置。(全7名)
12月 消防署救助工作車購入。(II型)

- 平成 19年 4月 消防職員3名採用する。
消防職員1名を総務部(防災安全係)へ派遣。
8月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 20年 2月 (財)日本消防協会から広報車寄贈。
4月 消防職員4名採用する。
消防職員2名を総務部(防災安全係)へ派遣。
救急救命士1名配置。(全7名)
7月 第46回県消防操法大会に第4分団が出場。
- 平成 21年 2月 第1分団消防車庫を更新。
3月 高規格救急自動車を日本自動車工業会から寄贈される。
高度救命資器材等を整備。
4月 組織・機構改革により、班長制の導入。
消防職員3名採用する。
消防職員3名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
救急救命士1名配置。(全8名)
7月 消防署指令車購入。
- 平成 22年 4月 消防職員3名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
救急救命士1名配置。(全9名)
9月 (財)日本外交協会へ消防署旧はしご付消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 23年 3月 東日本大震災に伴い、緊急消防援助隊(計2隊・13名)を派遣。
4月 消防職員2名採用する。
消防職員2名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
消防職員1名を都市経済部(都市整備課)へ派遣。
救急救命士1名配置。(全10名)
- 平成 24年 1月 災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車購入。(I-B型)
2月 (財)日本外交協会へ消防署旧水槽付消防ポンプ自動車を寄贈。
4月 消防職員2名採用する。
消防職員2名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
消防職員1名を都市経済部(都市整備課)へ派遣。
救急救命士1名配置。(全11名)
7月 第48回県消防操法大会に第3分団が出場。
- 平成 25年 4月 消防職員3名採用する。
消防職員2名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
救急救命士1名配置。(全11名)
- 平成 26年 3月 (財)日本消防協会より表彰第3回目の竿頭授受ける。
第3分団消防車庫を更新。
4月 消防職員4名採用する。(うち女性2名)
消防職員2名を町民生活部(防災安全課)へ派遣。
救急救命士1名配置。(全12名)
12月 災害対応特殊救急自動車購入。

消防の現況



◇ 消防力の現況 ◇

▼ 職員の定員と実員 ▼

(平成27年4月1日現在)

階級 区分	計	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	事務 吏員	派遣 職員
定員	46	階級別定員なし							
実員	44	1	5	9	10	10	8	1	

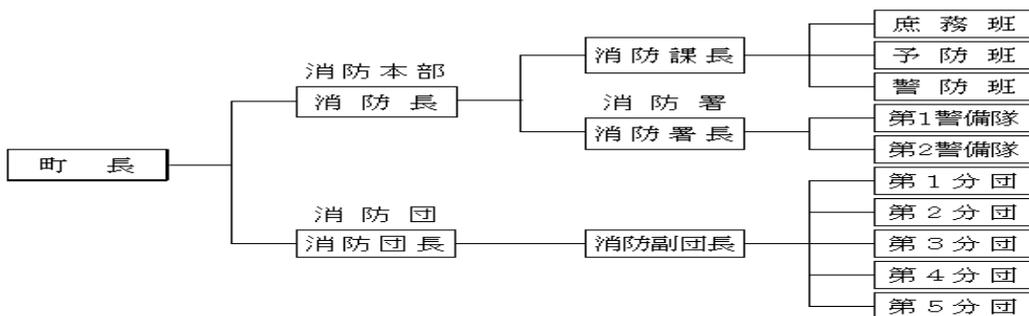
▼ 消防勢力 ▼

(平成27年4月1日現在)

種別 区別	消防職員			消防団員			消防ポンプ車		
現況	44人			76人			7台		
基準単位	消防職員1名当り			消防団員1名当り			消防ポンプ車1台当り		
区分	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯
算定数値	0.21	649.9	262.2	0.12	376.2	151.8	1.30	4,084.9	1,648.3

◇ 消防の組織 ◇
▼ 組織図 ▼

(平成27年4月1日現在)



▼ 歴代消防長 ▼

代別	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	摘要
初代	脇 哲	昭和 47年 2月 1日	昭和 49年 11月 30日	2年 10月	助役兼任
2	柳川賢二	昭和 49年 12月 1日	昭和 50年 1月 31日	2月	町長兼任
3	池田準一	昭和 50年 2月 1日	昭和 56年 7月 31日	5年 6月	助役兼任
4	渡辺 正太郎	昭和 56年 8月 1日	昭和 59年 6月 31日	2年 11月	
5	岩本公夫	昭和 59年 7月 1日	昭和 61年 3月 31日	1年 9月	
6	加藤孝次	昭和 61年 4月 1日	平成 2年 3月 31日	4年	
7	橘川吉一	平成 2年 4月 1日	平成 2年 12月 31日	9月	
8	川口喜宏	平成 3年 1月 1日	平成 8年 3月 31日	5年 3月	
9	露木 豊	平成 8年 4月 1日	平成 8年 7月 8日	3月	
10	西山喜介	平成 8年 7月 9日	平成 9年 3月 31日	9月	助役兼任
11	脇 純治	平成 9年 4月 1日	平成 10年 12月 31日	1年 9月	
12	古谷一夫	平成 11年 1月 1日	平成 17年 3月 31日	6年 3月	
13	菊地 元	平成 17年 4月 1日	平成 20年 3月 31日	3年	
14	原 幸男	平成 20年 4月 1日	平成 23年 3月 31日	3年	
15	加藤義則	平成 23年 4月 1日	平成 24年 3月 31日	1年	
16	西山弘和	平成 24年 4月 1日	平成 25年 3月 31日	1年	
17	橘川壽郎	平成 25年 4月 1日	平成 26年 3月 31日	1年	
18	小熊 朗	平成 26年 4月 1日		現在	

▼ 歴代消防団長 ▼

代別	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初代	西山喜八郎	昭和 23年 4月 1日	昭和 25年 3月 31日	2年
2	片岡彦十郎	昭和 25年 4月 1日	昭和 27年 3月 31日	2年
3	小沢新治	昭和 27年 4月 1日	昭和 31年 3月 31日	4年
4	添田靖一	昭和 31年 4月 1日	昭和 33年 3月 31日	2年
5	西山信次	昭和 33年 4月 1日	昭和 35年 3月 31日	2年
6	野谷仲造	昭和 35年 4月 1日	昭和 37年 3月 31日	2年
7	原 兼太郎	昭和 37年 4月 1日	昭和 39年 3月 31日	2年
8	柳川賢二	昭和 39年 4月 1日	昭和 43年 3月 31日	4年
9	原 久雄	昭和 43年 4月 1日	昭和 49年 3月 31日	6年
10	渡辺 正太郎	昭和 49年 4月 1日	昭和 53年 3月 31日	4年
11	西山 昇	昭和 53年 4月 1日	昭和 57年 3月 31日	4年
12	脇 政雄	昭和 57年 4月 1日	昭和 61年 3月 31日	4年
13	露木昭治	昭和 61年 4月 1日	平成 4年 3月 31日	6年
14	古木定男	平成 4年 4月 1日	平成 6年 3月 31日	2年
15	簗島保男	平成 6年 4月 1日	平成 12年 3月 31日	6年
16	二見泰弘	平成 12年 4月 1日	平成 16年 3月 31日	4年
17	柳川 駅司	平成 16年 4月 1日	平成 20年 3月 31日	4年
18	杉崎一夫	平成 20年 4月 1日		現在

▼ 消防本部の仕事 ▼

消防本部は、市町村の消防事務を統括する機関で、人事・予算・消防の企画運営などの事務を行い、次のように各班に分かれて仕事を受け持っています。

《庶務班》

予算の編成・執行の調整、文書の送受・保存、例規の制定・改廃、職・団員の人事・公務災害・福利厚生、庁舎の維持管理、消防団の庶務、その他、他の班に属さないもの。

《予防班》

火災予防計画・指導、火災予防広報・啓発、防火管理、消防用設備の設置指導、危険物の貯蔵取扱い指導・規制、火気取扱い指導、建築物等の許認可の同意、その他、火災予防に関すること。

《警防班》

消防警備計画、消防相互応援協定、消防力整備計画、消防水利施設の整備・管理等、消防職員・消防団員の訓練、資機材・車両の管理運用、水防、応急手当等の普及、その他、警防に関すること。

▼ 消防署の仕事 ▼

消防署は、火災の予防・警戒・鎮圧・救急救助などの活動の第1線部隊としての仕事をしており、主な仕事は次のようになっています。

《警備隊》

災害の警戒、防ぎよ活動、救急・救助活動、火災の原因・損害調査、消防気象観測、地理・水利調査、車両・通信機器の運用・点検整備、災害危険箇所の調査、その他、災害に関すること。

▼ 消防庁舎の概要 ▼

所在地	二宮町中里 711-1 番地		
構造	① 鉄筋コンクリート造2階建	(既存棟)	
	② 鉄骨造2階建	(増設棟)	
建築面積	① 360.24㎡		
	② 345.12㎡	計	705.36 ㎡
延面積	① 676.14㎡		
	② 536.95㎡	計	1,213.09 ㎡
敷地面積	1394.17㎡		
竣工	① 昭和 47 年 1 月 31 日		
	② 平成 10 年 9 月 30 日		

▼ 消防ポンプ車等配置状況 ▼

(平成27年4月1日現在)

種 別	社名 年式	ポンプ 製作所	ポンプ 検 定	規 格			定員	総重量 kg	燃料	総排気量 L	購 入 年 月	
				長さ m	幅 m	高さ m						
消 防 署	災害対応特殊 水槽付消防車 ポンプ自動車	日野 H23	長野 ポンプ	A 2	7.30	2.35	3.40	6	11,300	軽油	6,403	H24. 1
	普通消防車 ポンプ自動車	三菱 H14	モリタ	A 2	5.45	1.88	2.85	5	4,955	軽油	5,240	H14. 2
	救急車 1 (高規格)	日産 H21	—	—	5.64	1.90	2.47	7	3,125	ガソリン	3,490	H21. 3
	救急車 2 災害対応特殊 救急自動車	トヨタ H26	—	—	5.65	1.89	2.49	7	3,265	ガソリン	2,690	H26.12
	救助工作車	日野 H18	—	—	7.48	2.30	3.20	6	9,780	軽油	6,400	H18.12
	指 令 車	トヨタ H21	—	—	4.63	1.69	1.86	7	1,885	ガソリン	1,990	H21. 7
	積 載 車	日産 H16	—	—	4.67	1.69	2.20	6	3,270	ガソリン	1,990	H16. 7
	広 報 車	ダイハツ H20	—	—	3.39	1.47	1.92	4	1,460	ガソリン	650	寄 贈
	小 型 動 力 ポ ン プ	シハウラ ラビット	芝浦機械 富士ロビン	B 3 B 3	0.74 0.66	0.54 0.58	0.73 0.72	— —	93 88	ガソリン ガソリン	486 635	S63. 7 H12.12
消 防 団	第一 普通消防車 ポンプ自動車	イスズ H19	モリタ	A 2	5.83	1.88	2.45	9	4,435	軽油	2,990	H19. 8
	分団 小型動力 ポンプ	ラビット H13	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13. 9
	第二 普通消防車 ポンプ自動車	イスズ H17	モリタ	A 2	5.65	1.88	2.45	9	4,075	軽油	4,770	H17.10
	分団 小型動力 ポンプ	ラビット H13	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13. 9
	第三 普通消防車 ポンプ自動車	イスズ H15	モリタ	A 2	5.65	1.88	2.45	9	4,085	軽油	4,770	H15.10
	分団 小型動力 ポンプ	ラビット H13	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13. 9
	第四 普通消防車 ポンプ自動車	イスズ H10	モリタ	A 2	5.48	1.88	2.40	9	3,975	軽油	4,570	H10.11
	分団 小型動力 ポンプ	ラビット H12	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H11.10
	第五 普通消防車 ポンプ自動車	イスズ H12	モリタ	A 2	5.48	1.88	2.45	9	4,335	軽油	4,570	H12.12
	分団 小型動力 ポンプ	ラビット H11	富士 ロビン	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H11.10

▼ 消防配置図 ▼

管轄区域

〈消防本部・消防署〉
町内全域

〈第1分団〉
川匂地区
山西地区

〈第2分団〉
上町地区
中町地区
下町地区

〈第3分団〉
上町・中町・下町を除く
二宮地区及び元町地区
富士見が丘地区
松根地区

〈第4分団〉
中里地区
百合が丘1丁目地区

〈第5分団〉
一色
百合が丘2丁目地区
百合が丘3丁目地区
緑が丘地区



▼ 平成26年度の主要行事 ▼

- 4月15日 新入団員消防訓練指導
↳ (延べ3日間、普通救命講習含む)
- 4月20日
- 5月10日 消防署消防ポンプ性能検査
- 5月11日 消防団消防ポンプ性能検査
- 5月21日 湘南地区消防救助技術訓練会に出場
- 6月18日 神奈川県消防救助技術指導会に出場
- 10月22日 神奈川県消防職団員消防慰霊祭に出席
- 11月 9日 防災フェスタ(消防本部・消防団参加)
消防ふれあいコーナー協力(消防車両展示・消火体験)
- 11月 9日
↳ 秋の火災予防運動(ポスター配布)
- 11月15日
- 12月25日 歳末火災特別警戒実施
↳ (特別巡視・26日)
- 12月31日
- 1月11日 消防出初式(二宮町民運動場)
- 3月 1日 春の火災予防運動
↳ (消防署・消防団合同訓練、ポスター配布)
- 3月 7日

◇ 消防職員 ◇

▼ 消防職員の年齢 ▼

(平成27年4月1日現在)

階級 区分	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	事 務 吏 員	派 遣 職 員
計	44	1	5	9	10	10	8	1	
18～19才									
20～25才	4					1	3		
26～30才	14				2	7	5		
31～35才	6				4	2			
36～40才	2			1	1				
41～45才	6			3	3				
46～50才	4		1	3					
51～55才	2		1	1					
56～60才	6	1	3	1				1	
平均年齢	37.7	58.0	54.4	47.1	35.4	28.3	26.1	57.0	

▼ 消防職員の勤続年数 ▼

(平成27年4月1日現在)

階級 区分	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	事 務 吏 員	派 遣 職 員
計	44	1	5	9	10	10	8	1	
0～4年	10					1	8	1	
5～9年	12				4	8			
10～14年	3				2	1			
15～19年	3				3				
20～24年	7			6	1				
25～29年	2		1	1					
30～34年	1			1					
35年以上	6	1	4	1					
平均年数	15.3	40.0	36.4	26.2	13.4	6.6	1.6	1.0	

▼ 消防職員居住地状況 ▼

(平成27年4月1日現在)

居 住 地 名	町 内								町 外							合 計			
	一 色	緑 が 丘	中 里	富 士 見 が 丘	二 宮	山 西	百 合 が 丘	松 根	小 計	大 磯 町	中 井 町	寒 川 町	小 田 原 市	秦 野 市	平 塚 市		藤 沢 市	茅 ヶ 崎 市	小 計
人員	1	1	4	1	8	7	3		25	3		1	4	4	3	2	2	19	44

◇ 消防団 ◇

▼ 消防団員の定員と実員数 ▼

(平成27年4月1日現在)

消防団数	分団数	階級	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員
		人員							
1	5	定 員	78	1	2	5	5	30	35
		実 員	76	1	2	5	5	30	33

▼ 消防団員の内訳とポンプ台数 ▼

(平成27年4月1日現在)

階級・ ポンプ 所属	消 防 団 員 数							ポ ン プ 台 数		
	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	班 長	団 員	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ポンプ
計	76	1	2	5	5	30	33	10	5	5
本 部	3	1	2							
第 1 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 2 分 団	14			1	1	6	6	2	1	1
第 3 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 4 分 団	14			1	1	6	6	2	1	1
第 5 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1

▼ 消防団員勤続年数 ▼

(平成27年4月1日現在)

階級 区分	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	班 長	団 員
計	76	1	2	5	5	30	33
1 年 未 満	7						7
1 年 ～ 4 年	34					8	26
5 年 ～ 9 年	22				2	20	
10 年 ～ 19 年	12		2	5	3	2	
20 年 ～ 29 年	1	1					
平均年数	5.1	23.0	17.0	11.6	8.8	5.9	1.6

▼ 消防団員年齢 ▼

(平成27年4月1日現在)

階級 区分	計	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員
計	76	1	2	5	5	30	33
21才～25才	3						3
26才～30才	3						3
31才～35才	16				1	4	11
36才～40才	24			1		13	10
41才～45才	18			1	2	10	5
46才～50才	9			3	2	3	1
51才～55才	2		2				
56才以上	1	1					
平均年齢	39.2	59.0	53.5	45.2	41.8	40.1	35.3

▼ 消防団員の職業構成と就業形態 ▼

(平成27年4月1日現在)

計	職業構成													計	就業形態							
	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	電 気 給 水 道 業	運 輸 ・ 通 信 業	飲 食 ・ 小 売 業	卸 売 ・ 保 險 業	金 融 業	不 動 産 業	サ ー ビ ス 業		公 務 ・ 他 に 分 類 の 他	さ れ な い も の 他	被 用 者	役 員	被 用 者 の あ る 業 主	被 用 者 の な い 業 主	家 族 従 事 者	家 庭 内 職 者
76	1			1	8	20	3		5	2	2	15	11	8	76	54	4	2	2	9		5

▼ 消防団員報酬 ▼

(平成27年4月1日現在)

階級 区分	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員
年額	135,000円	90,000円	49,000円	40,000円	33,000円	33,000円
警戒・訓練等	一律1,500円					
災害出動	一律3,000円					

▼ 消防職員・団員受賞歴 ▼

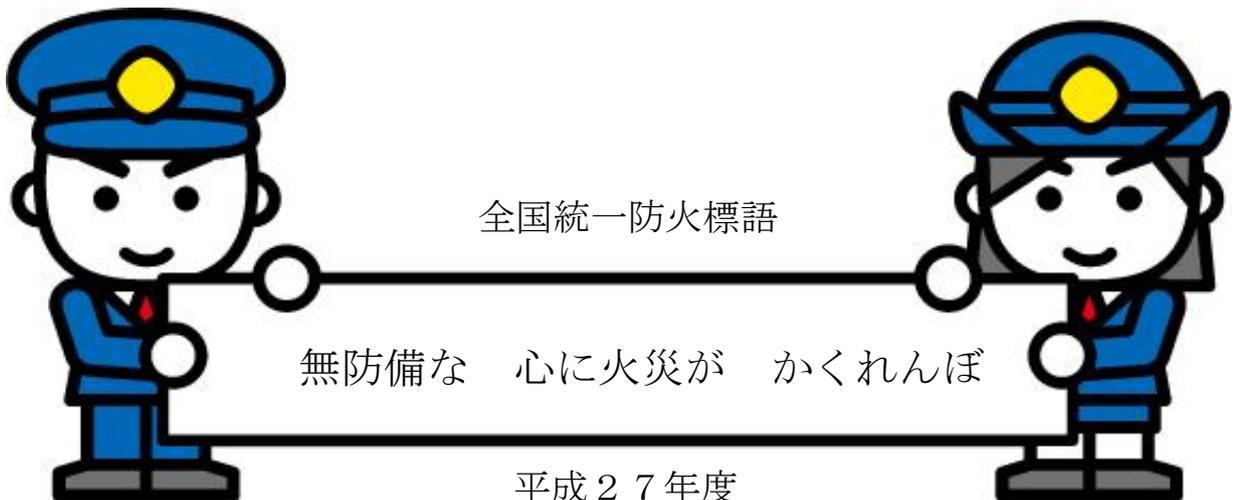
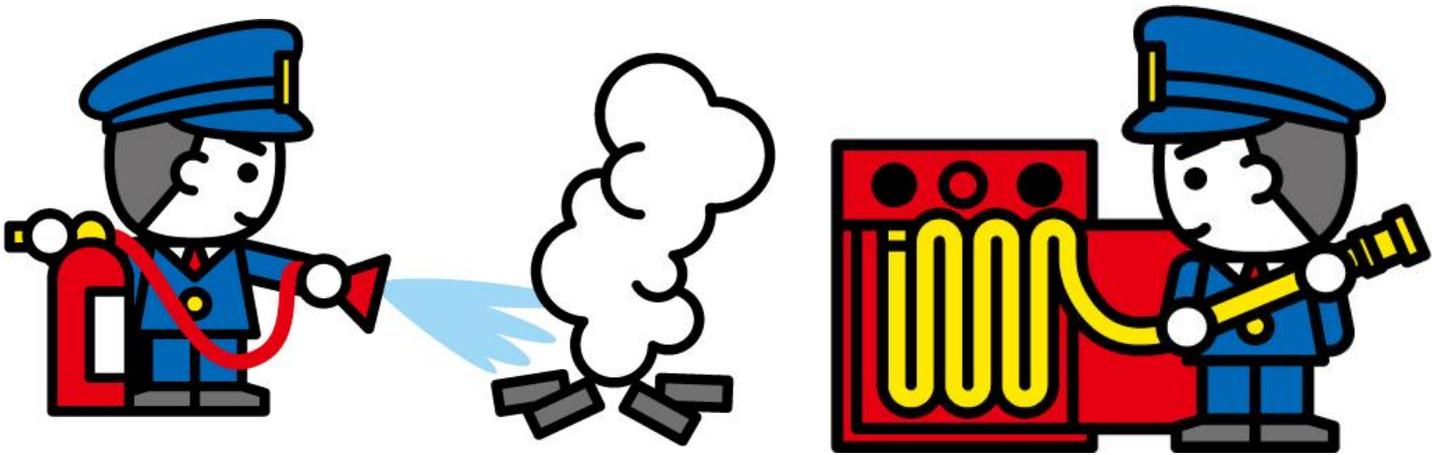
団体

受章年度	表彰区分	受章年度	表彰区分
昭和33年度	日本消防協会竿頭綬	昭和57年度	日本消防協会特別表彰「まとい」
昭和37年度	消防庁竿頭綬	昭和62年度	日本消防協会竿頭綬
昭和43年度	日本消防協会表彰旗	平成17年度	神奈川県消防協会竿頭綬
昭和45年度	消防庁表彰旗	平成25年度	日本消防協会竿頭綬
昭和53年度	神奈川県消防操法大会最優秀賞		

個人

受章者	表彰区分	受章日	受章者	表彰区分	受章日
原久雄	木杯	昭和62年11月3日	宮戸康夫	瑞宝単光章	平成26年4月29日
露木昭治	勲七等瑞宝章	平成7年11月7日			
西山昇	勲六等瑞宝章	平成10年4月29日			
柳川駅司	消防庁長官	平成18年3月3日			

火災予防



◇ 火災予防 ◇

▼ 火災予防条例に基づく届出状況 ▼

(1) 各種届出状況

(平成27年4月1日現在)

年 度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
各種届出			
合 計	44	40	41
炉 設 備			
厨 房 設 備			
温 風 暖 房 機 設 備			
ボ イ ラ ー 設 備			1
給 湯 湯 沸 設 備			
乾 燥 設 備			1
サ ウ ナ 設 備			
ヒートポンプ冷暖房機設備			
火花を生ずる設備			
放 電 加 工 機 設 備			
変 電 設 備		1	
発 電 設 備			1
蓄 電 池 設 備		1	
ネオン管灯設備			
火災と紛らわしい行為等	36	29	32
煙火の打上げ、仕掛け等	4	2	4
催物の開催等	1	2	2
指 定 洞 道 等			
少量危険物貯蔵・取扱	3	5	
指定可燃物貯蔵・取扱			

(2) 防火対象物使用開始届出状況

防火対象物の区分		年 中	平成24年	平成25年	平成26年
		合 計	19	12	15
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	1		1
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			
	ロ	飲 食 店 等	3	3	1
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	2	2	
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル			
	ロ	共 同 住 宅	2	1	4
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所	2		1
	ロ	福 祉 施 設 等		1	
	ハ	福 祉 施 設 等	1		1
	ニ	幼 稚 園 等			
7項		学 校			
8項		図 書 館 等			
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎			
11項		神 社 等		1	
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	1		2
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等			
15項		事 務 所 等	7	4	4
16項	イ	特 定 複 合 用 途			1
	ロ	複 合 用 途			
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ード			

※ 6項ロに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるもの。

※ 6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 消防用設備等設置届出状況 ▼

防火対象物の区分		年 中	平成24年	平成25年	平成26年
		合 計	23	29	24
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	3	1	2
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カラオケボックス等個室型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			
	ロ	飲 食 店 等	1	3	1
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	5	4	1
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル			
	ロ	共 同 住 宅	2	1	4
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所	2	2	1
	ロ	福 祉 施 設 等		1	
	ハ	福 祉 施 設 等	3	3	3
	ニ	幼 稚 園 等			
7項		学 校		7	1
8項		図 書 館 等		1	
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎			
11項		神 社 等		1	
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場		1	3
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等			
15項		事 務 所 等	7	2	3
16項	イ	特 定 複 合 用 途		1	4
	ロ	複 合 用 途		1	1
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ード			

※ 6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※ 6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 防火管理者届出状況 ▼

(平成27年4月1日現在)

防火対象物の区分		対象物数・届出数	消防法第17条 対象物	消防法第8条 対象物	防火管理者 届出済対象物
合 計			723	239	158
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	38	18	16
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カラオケボックス等個室型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			
	ロ	飲 食 店 等	28	22	14
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	39	21	15
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル	4	3	1
	ロ	共 同 住 宅	302	39	37
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所	22	5	4
	ロ	福 祉 施 設 等	7	7	7
	ハ	福 祉 施 設 等	19	15	13
	ニ	幼 稚 園 等	5	5	5
7項		学 校	7	7	7
8項		図 書 館 等	1	1	1
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎			
11項		神 社 等	20	5	2
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	52	7	3
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等	8	1	
15項		事 務 所 等	69	34	19
16項	イ	特 定 複 合 用 途	61	43	12
	ロ	複 合 用 途	41	6	2
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ー ド			

※ 6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※ 6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 中高層建築物一覧表 ▼

(平成27年4月1日現在)

防火対象物の区分		階 数	3階・4階	5階	6階	7階	8階
		合 計	111	31	3		1
1項	イ	映 画 館					
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	3				
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等					
	ロ	遊 技 場 等					
	ハ	性 風 俗 関 連 等					
	ニ	カラオケボックス等個室型 店 舗					
3項	イ	料 理 店 等					
	ロ	飲 食 店 等	4				
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	5				
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル	1				
	ロ	共 同 住 宅	22	29	3		1
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所	5				
	ロ	福 祉 施 設 等	3				
	ハ	福 祉 施 設 等	5				
	ニ	幼 稚 園 等					
7項		学 校	12	1			
8項		図 書 館 等					
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場					
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場					
10項		駅 舎					
11項		神 社 等					
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	2				
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等					
13項	イ	駐 車 場 等					
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等					
14項		倉 庫 等	1				
15項		事 務 所 等	17				
16項	イ	特 定 複 合 用 途	16				
	ロ	複 合 用 途	15	1			
17項		重 要 文 化 財 等					

※ 6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

※ 6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

▼ 用途別の消防同意処理状況 ▼

(平成27年4月1日現在)

用途別			年度・件数・面積		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
			件数	面積㎡	件数	面積㎡	件数	面積㎡		
合 計			74	12,944.55	94	18,075.48	96	14,730.52		
1項	イ	映 画 館								
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場					3	1,166.62		
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等								
	ロ	遊 技 場 等								
	ハ	性 風 俗 関 連 等								
	ニ	カラオケボックス等個室型店舗								
3項	イ	料 理 店 等								
	ロ	飲 食 店 等	1	476.01			1	379.31		
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	1	393.21						
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル								
	ロ	共 同 住 宅			5	2,651.07	2	902.70		
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所			2	700.86				
	ロ	福 祉 施 設 等								
	ハ	福 祉 施 設 等								
	ニ	幼 稚 園 等					1	1,761.51		
7項		学 校								
8項		図 書 館 等								
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場								
	ロ	イ以外の公衆浴場								
10項		駅 舎			5	150.59				
11項		神 社 等	1	193.44						
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	1	12.15	2	621.77				
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等								
13項	イ	駐 車 場 等	1	20.82						
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等								
14項		倉 庫 等	1	181.74						
15項		事 務 所 等	1	42.00	1	189.00				
16項	イ	特 定 複 合 用 途					1	433.76		
	ロ	複 合 用 途								
17項		重 要 文 化 財 等								
18項		ア ー ケ ー ド								
専 用		住 宅	67	11,625.18	79	13,762.19	88	10,086.62		

◇ 危険物 ◇

▼ 危険物製造所等の区別設置件数の推移 ▼

(平成27年4月1日現在)

区 分		年 度			
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	
総 数		19	19	13	
製 造 所					
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	1	1		
	屋外タンク貯蔵所	1	1	1	
	屋内タンク貯蔵所				
	地下タンク貯蔵所	8	8	7	
	簡易タンク貯蔵所				
	移動タンク貯蔵所	1	1	1	
	屋 外 貯 蔵 所				
取 扱 所	給油取扱所	営 業	2	2	1
		自 家			
	販売取扱所	第 1 種			
		第 2 種			
	一 般 取 扱 所	6	6	3	

▼ 危険物製造所等における危険物の貯蔵及び取扱量 ▼

(平成27年4月1日現在)

区 分		施 設 数						
		合計 (件)	第1類 (L)	第2類 (L)	第3類 (L)	第4類 (L)	第5類 (L)	第6類 (L)
製造所等の別								
合 計		14				307,520		
製 造 所								
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	1				2,860		
	屋外タンク貯蔵所	1				1,900		
	屋内タンク貯蔵所							
	地下タンク貯蔵所	7				192,700		
	簡易タンク貯蔵所							
	移動タンク貯蔵所	1				2,000		
	屋 外 貯 蔵 所							
取 扱 所	給油取扱所	営 業	1			91,800		
		自 家						
	販売取扱所	第 1 種						
		第 2 種						
	一 般 取 扱 所	3				16,260		

▼ 倍数別危険物製造所等の設置状況 ▼

(平成27年4月1日現在)

製造所等の別		合計	倍 数 の 別														
			五 倍 以 下	五 倍 を 超 え	十 倍 を 超 え	十 倍 以 下	五 十 倍 を 超 え	五 十 倍 以 下	百 倍 を 超 え	百 倍 以 下	百 五 十 倍 を 超 え	百 五 十 倍 以 下	2 百 倍 を 超 え	2 百 倍 以 下	5 千 倍 を 超 え	5 千 倍 以 下	
合 計		14	10	1	1					1					1		
製 造 所																	
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	1	1														
	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	1	1														
	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所																
	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	7	5		1					1							
	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所																
	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	1	1														
	屋 外 貯 蔵 所																
取 扱 所	給油取扱所	営 業	1													1	
		自 家															
	販売取扱所	第 1 種															
		第 2 種															
	一 般 取 扱 所	3	2	1													

▼ 危険物製造所等に係る申請及び届出の状況 ▼

(平成26年度)

製造所等の別		許 可		完 成		水張 検 査	廃 止 届	仮 使 用	仮 貯 蔵 ・ 取 扱
		設 置	変 更	設 置	変 更				
合 計			1		1	14	5		
製 造 所						14			
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所								
	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所								
	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所								
	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所		1		1		1		
	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所								
	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所								
	屋 外 貯 蔵 所								
取 扱 所	給油取扱所	営 業					1		
		自 家							
	販売取扱所	第 1 種							
		第 2 種							
	一 般 取 扱 所						3		

◇ 査 察 ◇

(1) 危険物製造所等に対する査察等の実施状況

(平成26年中)

実施件数 区分	製造所等の総数	査察実施数	完成検査 実施数	指 導 件 数	是正件数
合 計	19	19	1	2	2
製 造 所					
屋 内 貯 蔵 所	1	1			
屋外タンク貯蔵所	1	1			
屋内タンク貯蔵所					
地下タンク貯蔵所	8	8	1	1	1
簡易タンク貯蔵所					
移動タンク貯蔵所	1	1			
屋 外 貯 蔵 所					
給 油 取 扱 所	2	2			
第1種販売取扱所					
第2種販売取扱所					
一 般 取 扱 所	6	6		1	1

(2) 防火対象物に対する査察実施状況

(平成26年中)

防火対象物の区分		項目	防火対象物数	査察実施数	指導件数	是正件数
合計			723	41	30	25
1項	イ	映画館				
	ロ	公会堂・集会場	38	1	1	1
2項	イ	キャバレー等				
	ロ	遊技場等				
	ハ	性風俗関連等				
	ニ	カラオケボックス等個室型店舗				
3項	イ	料理店等				
	ロ	飲食店等	28	4	3	1
4項		店舗・マーケット	39	5	2	2
5項	イ	旅館・ホテル	4			
	ロ	共同住宅	302	3	2	1
6項	イ	病院・診療所	22	1		
	ロ	福祉施設等	7	7	6	6
	ハ	福祉施設等	19	9	8	8
	ニ	幼稚園等	5	1		
7項		学校	7	1	1	1
8項		図書館等	1			
9項	イ	蒸気・熱気浴場				
	ロ	イ以外の公衆浴場				
10項		駅舎				
11項		神社等	20			
12項	イ	工場・作業場	52	3	2	1
	ロ	映画・スタジオ等				
13項	イ	駐車場等				
	ロ	飛行機の格納庫等				
14項		倉庫等	8			
15項		事務所等	69	2	1	1
16項	イ	特定複合用途	61	4	4	3
	ロ	複合用途	41			

※ 6項ロは、主として要介護状態にある者を入居させる福祉施設

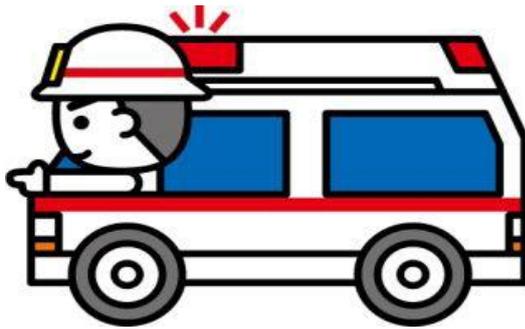
※ 6項ハは、6項ロ以外の福祉施設

(3) 消防用設備等に対する完成検査実施状況

(平成26年中)

消防用設備等	項目	設置届等	検査
合計		27	14
消火器		8	4
屋内消火栓			
スプリンクラー設備		2	2
水噴霧消火設備			
屋外消火栓設備			
自動火災報知設備		5	1
ガス漏れ火災警報器			
漏電火災警報器		1	1
消防機関へ通報する 火災報知設備		3	1
非常警報設備		2	1
避難器具		1	1
誘導灯		5	3
連結散水栓設備			
連結送水管設備			
非常電源			

消防の活動



◇ 火災概要 ◇

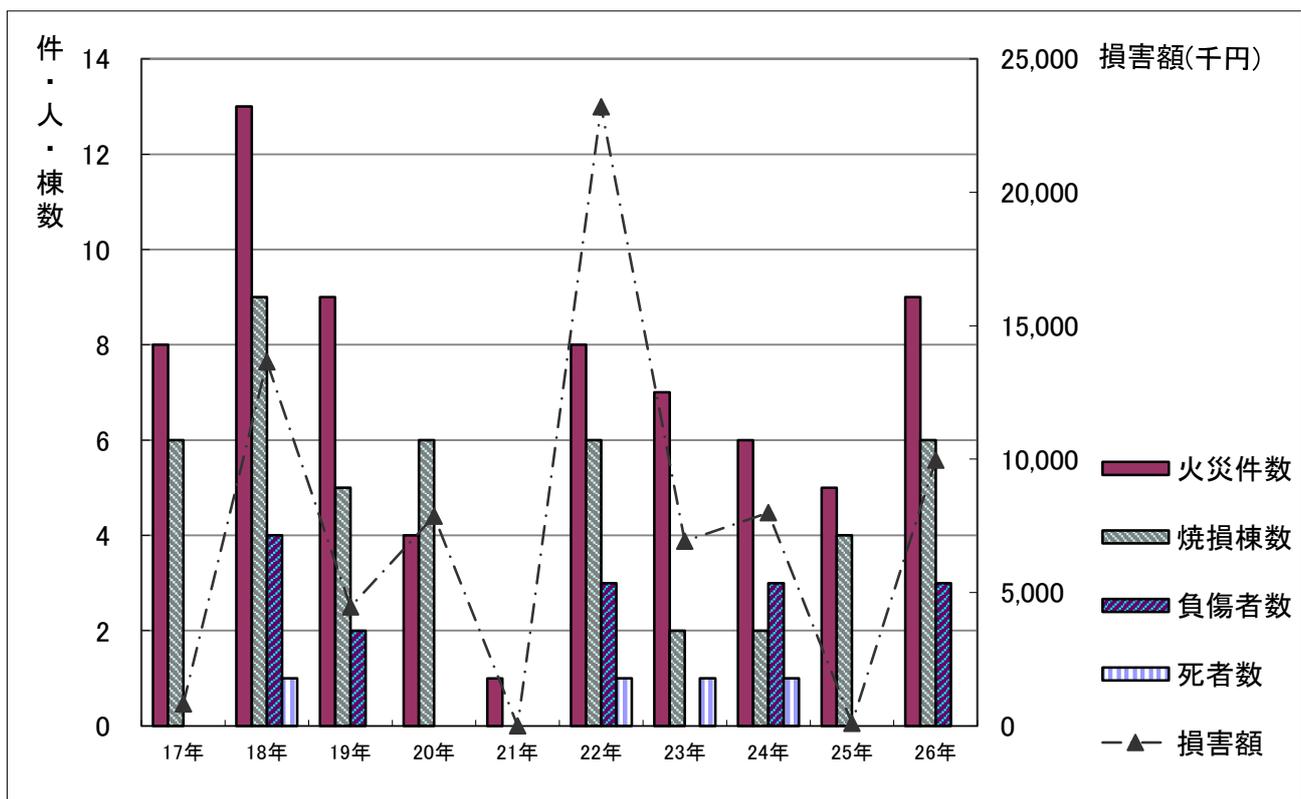
▼火災の発生状況（過去10年間）▼

平成26年中の火災は9件で、そのうち建物火災が6件、林野火災1件及びその他火災が2件ありました。負傷者は3名で1名の方は消防隊の救出により事なきを得ました。

また、住宅用火災警報器の鳴動や警備会社、近所からの通報によって未然に防げた火災は8件あり住宅用火災警報器や隣近所のお付き合いの大切さを感じました。

区分 年中	火災種別							死 傷 者	負 傷 者	り り 災 災 世 人 帯 員	損 害 額 合 計 (千円)	損 害 額		焼 損 棟 数	建 物 焼 損 面 積 (㎡)
	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	航 空 機	そ の 他					建 物 火 災	建 の 物 火 災 以 外		
平成 17年	8	6		1			1		3	6	826	447	379	6	12(3)
〃 18年	13	9					4	1	4	6	13,641	13,635	6	9	349(2)
〃 19年	9	5		2			2		2	3	4,461	4,421	40	5	69(1)
〃 20年	4	4							6	13	7,861	6,191	1,670	6	132(60)
〃 21年	1			1							6		6		
〃 22年	8	8					1	3	5	18	23,204	23,204		6	454(17)
〃 23年	7	2		3			2		2	4	6,925	6,630	295	2	106
〃 24年	6	2		2			2	1	3	2	7,996	5,478	2,518	2	100(116)
〃 25年	5	4					1		3	5	101	101		4	4
〃 26年	9	6	1				2		3	5	9,966	9,955	11	6	118(55)

※建物焼損面積の()は表面積



▼月別火災発生状況▼

(平成26年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
火災種別	建物		6		2			1			1	1			1	
	林野		1	1												
	車両															
	その他		2			1				1						
原因大別	失火		6	1	2	1		1							1	
	放火・疑い		1								1					
	不明		1									1				
	その他															
死傷者	死者															
	負傷者		3		1						1				1	
建物	焼損棟数	火元棟	全焼	1							1					
		半焼														
		部分焼	3		1			1							1	
		ぼや	1		1											
	棟類	全焼														
		半焼														
		部分焼														
		ぼや														
	り災世帯	全損	2		1							1				
		半損	1						1							
		小損	2		1											1
		計	5		2				1			1				1
り災者数	12		4				1			4				3		
焼損面積(m ²)	全焼	34									34					
	半焼	5										5				
	部分焼	78		17				49							12	
	ぼや	1		1												
	計	118		18				49			34	5			12	
林野焼損面積(m ²)	1,460	1,460														
車両(台数)																
その他焼損面積(m ²)	800				800											
損害見積額	家屋	建物	9,154		769			379			6,337	460			1,209	
		収容物	801		44			96			283				378	
	林野															
	車両															
	その他	11								11						
	計(千円)	9,966		813				475		11	6,620	460			1,587	

◇ 消防隊の出場状況 ◇

▼ 月別救助出場状況 ▼

(平成26年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
救助 出場	交通事故(件)		9		1		1	1		1	1		1	1	2
	救助人員(人)		4 (3)		(1)			1		1	1			1	(2)
	その他(件)		15	1	2		3	1		2		1	1	1	3
	救助人員(人)		5 (4)	(1)	(1)		2(1)			2			(1)		1
	件数合計(件)		24	1	3		4	2		3	1	1	2	2	5
	人員合計(人)		9 (7)	(1)	(2)		2(1)	1		3	1		(1)	1	1(2)
傷病者 程度	死亡		2					1			1				
	重症														
	中等症		6	1	1		2			1			1		
	軽症		8		1		1			2				1	3
	合計		16	1	2		3	1		3	1		1	1	3

※ ()内は救助活動無の傷病者の人員です。

▼ 月別警戒出場状況 ▼

(平成26年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種別	火災警戒		8	1	1		3					2	1		
	危険排除		8	2	2			1					1	1	1
	その他		15	2	5			2	2	1		1		1	1
	合計		31	5	8		3	3	2	1		3	2	2	2

※誤報も火災警戒に含む

▼ 月別救急支援出場状況 ▼

(平成26年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種別	Drヘリ支援		5	2			1		1		1				
	交通事故支援		10	2					1	1	2	1	1	2	
	CPA等搬送支援		65	12	9	8	5	3	6	5	3	2	8	3	1
	その他		26	6	2	5	2			1		3	3	2	2
	合計		106	22	11	13	8	3	8	7	6	6	12	7	3

▼ 月別応援出場状況 ▼

(平成26年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
大磯管内	火災		3	2											1
	救急		4	1					1	1				1	
	救助・支援														
小田原管内	火災		4		1				1	2					
	救急		5						1	1			3		
	救助・支援		4	1						1			2		

◇ 救 急 ◇

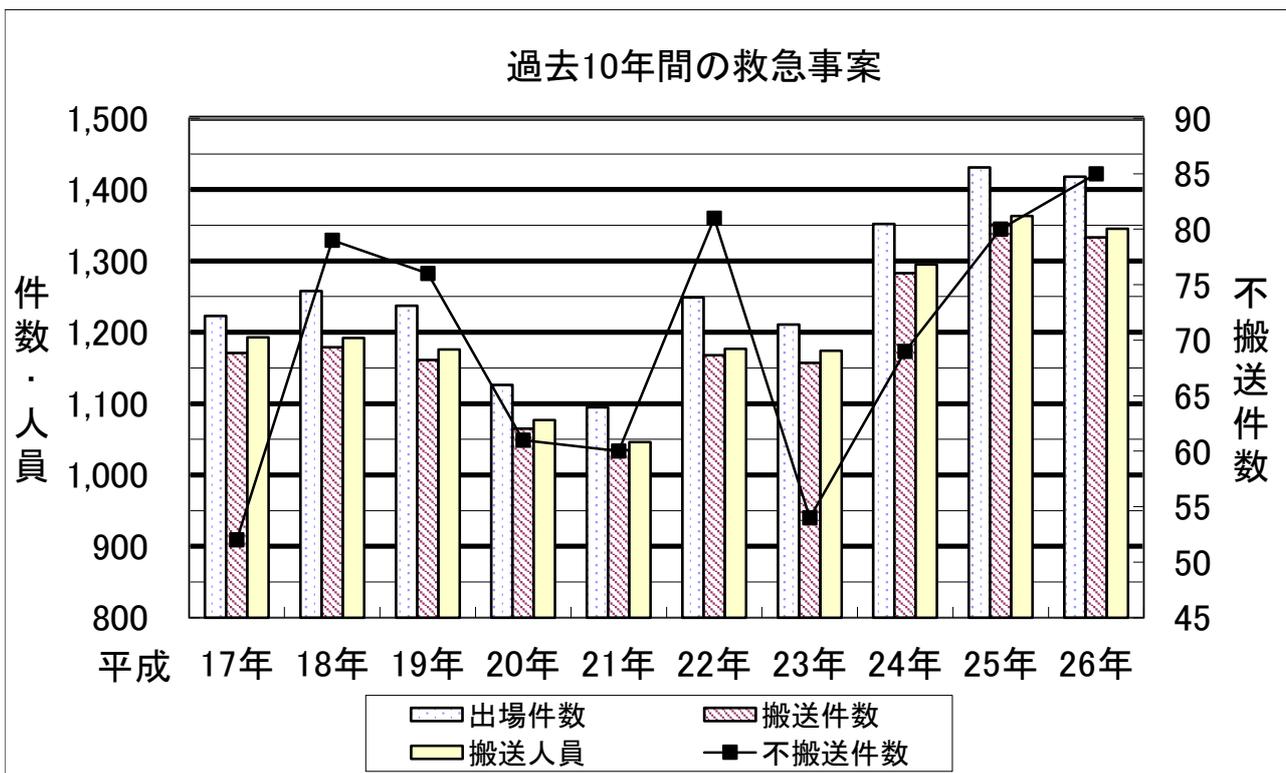
▼救急出場件数推移▼

平成26年中における救急業務の実施状況については、出動件数が1,418件で1日平均約3.9件、搬送人員は1,345人でした。昨年度と比較すると出動件数で13件、搬送人員で18人減少しています。また75歳以上の方の割合は約53%を占め、今後も増加が見込まれます。

救急要請が重なり、2台目の救急車が出動した件数は169件で、2台とも出動中に救急要請があり近隣消防に応援出動を要請した件数は14件でした。

搬送した傷病者のおよその内訳は軽症で38%、中等症52%、重症8%、CPA等で死亡された方が2%でした。

年	区分	出場件数	搬送件数	搬送人員	不搬送件数	一日平均
平成	17年	1,223	1,171	1,193	52	3.4
"	18年	1,258	1,179	1,192	79	3.4
"	19年	1,237	1,161	1,176	76	3.4
"	20年	1,126	1,065	1,077	61	3.1
"	21年	1,095	1,035	1,046	60	3.0
"	22年	1,249	1,168	1,177	81	3.4
"	23年	1,211	1,157	1,174	54	3.3
"	24年	1,352	1,283	1,295	69	3.7
"	25年	1,431	1,351	1,363	80	3.9
"	26年	1,418	1,333	1,345	85	3.9



▼月別救急活動状況▼

(平成26年中)

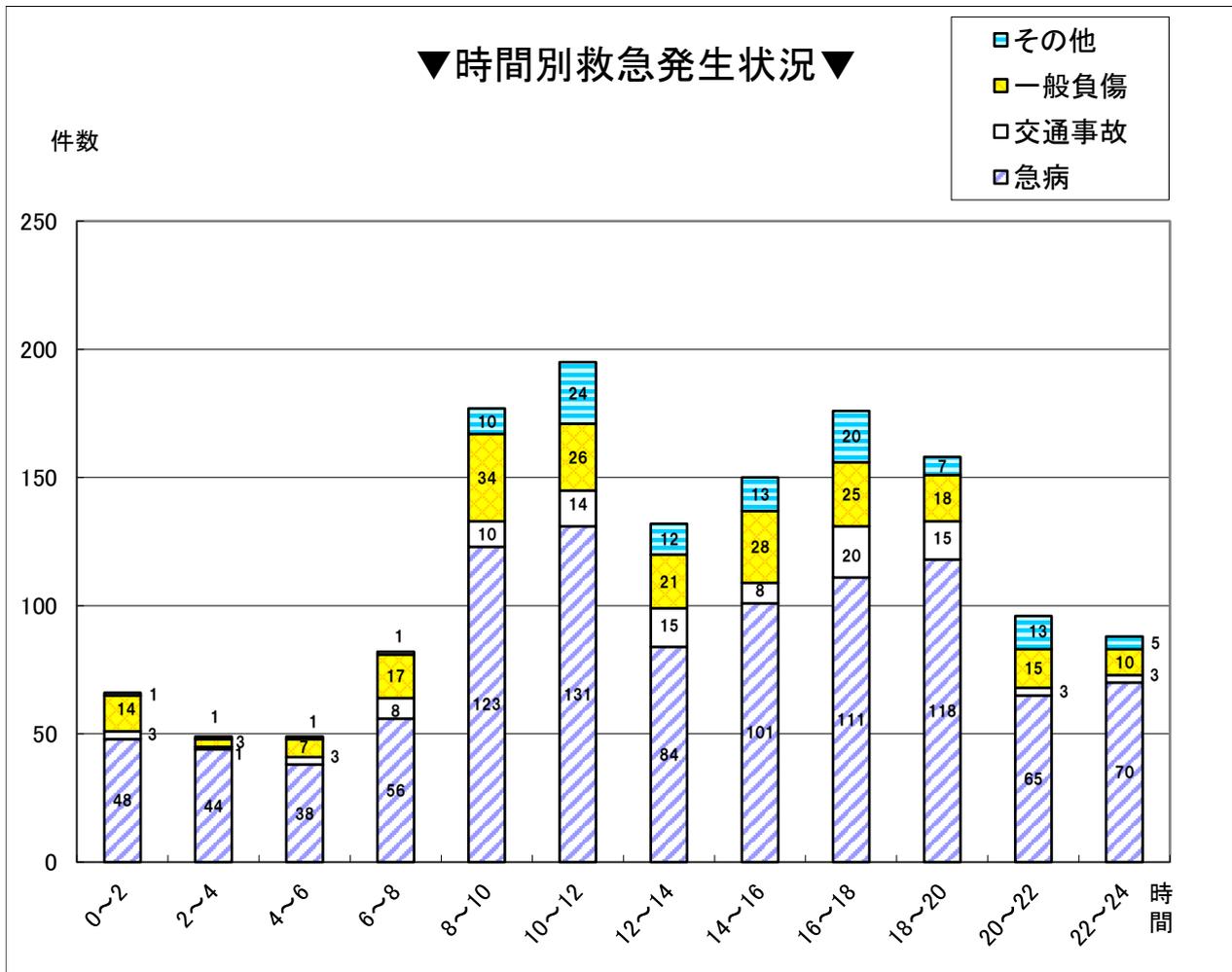
事故種別 区分		合 計	一 日 平 均	火 災 事 故	自 然 災 害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害 事 故	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合計	出場件数	1,418	3.9	1			103	11	10	218	7	14	989	65
	搬送人員	1,345	3.7	1			109	11	9	210	5	9	940	51
	不搬送件数	85	0.2				6		1	8	2	5	49	14
1月	出場件数	153	4.9				6			27	1	2	109	8
	搬送人員	143	4.6				6			25	1	1	103	7
	不搬送件数	10	0.3							2		1	6	1
2月	出場件数	108	3.7				4	2	1	14		2	80	5
	搬送人員	99	3.4				3	2	1	14		1	75	3
	不搬送件数	9	0.3				1					1	5	2
3月	出場件数	127	4.1				8	2		18	1	2	94	2
	搬送人員	117	3.8				8	2		17		1	87	2
	不搬送件数	10	0.3							1	1	1	7	
4月	出場件数	121	4.0				7	1		20		1	86	6
	搬送人員	119	4.0				9	1		20		1	84	4
	不搬送件数	5	0.2				1						2	2
5月	出場件数	109	3.5				9	2		18		3	67	10
	搬送人員	105	3.4				9	2		17		2	65	10
	不搬送件数	4	0.1							1		1	2	
6月	出場件数	101	3.4				14		2	17			64	4
	搬送人員	97	3.2				14		2	16			62	3
	不搬送件数	6	0.2				2			1			2	1
7月	出場件数	122	3.9				10	1	4	21	1		81	4
	搬送人員	114	3.7				11	1	3	20	1		74	4
	不搬送件数	9	0.3						1	1			7	
8月	出場件数	141	4.5				11			20	1	1	97	11
	搬送人員	137	4.4				12			20	1	1	94	9
	不搬送件数	5	0.2										3	2
9月	出場件数	102	3.4				7	2	3	16		2	72	
	搬送人員	97	3.2				7	2	3	15		1	69	
	不搬送件数	5	0.2							1		1	3	
10月	出場件数	107	3.5				12			17	1		74	3
	搬送人員	105	3.4				14			17			72	2
	不搬送件数	5	0.2				1				1		2	1
11月	出場件数	113	3.8				9			16	2	1	77	8
	搬送人員	105	3.5				9			16	2	1	72	5
	不搬送件数	8	0.3										5	3
12月	出場件数	114	3.7	1			6	1		14			88	4
	搬送人員	107	3.5	1			7	1		13			83	2
	不搬送件数	9	0.3				1			1			5	2

▼曜日別救急発生状況▼

(平成26年中)

事故別 曜日別	合計	火災事故	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害事故	自損行為	急病	その他
合計	1,418	1			103	11	10	218	7	14	989	65
月	175				15		1	24		2	124	9
火	205	1			13	5		38	1	3	135	9
水	205				14	1	1	36			148	5
木	177				7		2	23	3	1	131	10
金	228				15	2	1	31	2	4	158	15
土	211				20	2	4	35		3	135	12
日	217				19	1	1	31	1	1	158	5

▼時間別救急発生状況▼



▼事故種別不搬送件数▼

(平成26年中)

種別 \ 理由	合計	緊な 急 性し	傷な 病 者し	拒 否	酩 酊	死 亡	現 場 処 置	誤 い た ず 報 ら	そ の 他
合計	85	28	6	28	8	12	0	3	0
急病	49	20	1	18	1	8		1	
交通事故	6	2	1	3					
一般負傷	8	4	1	3					
その他	22	2	3	4	7	4		2	

▼地区別出場件数▼

(平成26年中)

地区	合計	二宮	山西	中里	百合が丘	一色	富士見が丘	緑が丘	川匂	松根	その他
件数	1,418	453	243	219	200	77	107	56	29	12	22

▼覚知別件数▼

《覚知別発生状況》

(平成26年中)

種別	合計	専用(119)	加入電話	駆け込み	携帯(転送)	シルバー	その他
件数	1,418	1,134	135	79	30	20	20

▼所要時間別出場件数と搬送人員▼

(平成26年中)

時間経過 \ 事故種別	合計 件数	現場到着所要時間(覚知から現場到着)					病院収容時間(覚知から病院到着)					
		0分 ～ 3分	3分 ～ 5分	5分 ～ 10分	10分 ～ 20分	20分 以上	搬 送 人 員 合 計	0分 ～ 20分	20分 ～ 30分	30分 ～ 60分	60分 以上	
計	1,418	13	168	1,142	86	9	1,345	7	387	914	37	
急病	989	8	100	823	54	4	940	4	274	640	22	
交通事故	103	3	13	74	11	2	109	0	25	80	4	
一般負傷	218	1	29	172	15	1	210	0	55	146	9	
その他	108	1	26	73	6	2	86	3	33	48	2	

※ 現場到着に時間を要している事案は、救急出場中の要請及び町外(自動車専用道路の応援等)に出場していたためです。

▼傷病程度と年齢別搬送人員▼

(平成26年中)

事故種別	年 齢 区 分						傷 病 程 度				
	合 計	新 生 児	乳 幼 児	少 年	成 人	高 齢 者	合 計	死 亡	重 症	中 等 症	軽 症
合 計	1,345		42	50	332	921	1,345	32	112	697	504
急 病	940		29	17	219	675	940	27	81	526	306
交通事故	110		5	14	63	28	110	1	3	26	80
一般負傷	209		8	9	27	165	209	3	11	97	98
その他	86			10	23	53	86	1	17	48	20

その他は、火災・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・自然災害事故等含む。

「年齢区分の内容」

区 分	内 容
乳幼児	生後29日～満7才未満
少年	満7才～満18才未満
成人	満18才～65才未満
高齢者	満65才以上

「傷病程度の内容」

程 度	内 容
死 亡	初診時に死亡確認
重 症	入院3週間以上又は瀕死状態
中等症	入院を要し重症に至らない
軽 症	入院を必要としない

▼応急処置等実施状況▼

(平成26年中)

事故種別		急 病	交通事故	一般負傷	その他	計
区 分	応急処置等対象人員	936	108	209	86	1,339
	応 急 処 置 合 計	3,818	434	792	357	5,401
処 置 件 数	止血(止血帯等)	4	2	18	3	27
	固定(副子等・頸部・全身)	6	72	45	15	138
	人工呼吸	29	2	2	1	34
	心マッサージ	32	1	4	1	38
	心肺蘇生	32	1	4	1	38
	酸素吸入	250	4	10	25	289
	気道確保	46	1	4		51
	経鼻エアウェイ	17				17
	咽頭鏡・鉗子等			1		1
	特定行為(LM等)	28		1		29
	特定行為(気管内挿管)	1		1		2
	保温	22	2	7	4	35
	被覆	6	23	43	9	81
	在宅療法継続	5				5
	ショックパンツによる血圧保持	1				1
	除細動(包括的)	1				1
	静脈路確保(特定行為)	21		1		22
	薬剤投与	18		1		19
	その他の応急処置	70		5	4	79
血圧測定	861	101	202	79	1,243	
聴診器による聴取	880	98	188	80	1,246	
血中酸素飽和度の測定	892	105	202	84	1,283	
心電図	596	22	53	51	722	

▼応急手当講習会等の実施状況▼

平成26年度の応急手当等の講習会の開催回数は36回で、460名の方が受講されました。

普通救命講習の受講者は446名で、受講者総数は4,435名、上級救命講習については2回開催し14名の方が受講され、受講者総数は264名となりました。(平成27年4月1日現在)

救命率の向上を図るため、多くの町民の方に受講していただきました。また、自動体外式除細動器(AED)も町内の公共施設をはじめ、一般企業や事業所等にも設置されています。町内のAEDについては、二宮町のホームページでも随時公表しています。

(平成26年度)

番号	講習月日	講習会区分	受講者区分	受講者	新規修了者	再講習者	男性	女性
1	4月 8日	普通救命講習	町役場職員(新規採用)	7	7		4	
2	5月16日	普通救命講習	消防本部主催定期開催	5	2	3	2	3
3	5月24日	普通救命講習	たすけあいワーカーズ大空	18	3	15	3	15
4	5月25日	普通救命講習	たすけあいワーカーズ大空	17	4	13	4	13
5	5月26日	普通救命講習	二宮町生涯学習課	17	2	15	12	5
6	5月28日	普通救命講習	二宮町生涯学習課	5	2	3	3	2
7	6月20日	普通救命講習	消防本部主催定期開催	4	3	1	2	2
8	6月28日	普通救命講習	東海体育サービス	11	3	8	5	6
9	6月30日	救急講習	めぐみ幼稚園	10				
10	7月18日	普通救命講習	消防本部主催定期開催	3	2	1	3	
11	7月22日	普通救命講習	教育委員会(教職員)	9	2	7	5	4
12	7月25日	普通救命講習	二宮中学校	21	21		16	5
13	7月26日	普通救命講習	体育指導員	15	15		11	4
14	7月28日	普通救命講習	二宮中学校	19	18	1	10	9
15	7月29日	普通救命講習	二宮西中学校	20	19	1	8	12
16	7月30日	普通救命講習	二宮西中学校	20	19	1	6	14
17	7月31日	普通救命講習	二宮中学校	22	22		11	11
18	8月1日	普通救命講習	教育委員会(教職員)	8	2	6	3	3
19	8月2日	普通救命講習	危険物安全協会	2		2	1	1
20	8月4日	普通救命講習	二宮中学校	20	20		5	15
21	8月5日	普通救命講習	普通救命講習	18	17	1	9	9
22	8月6日	普通救命講習	二宮西中学校	21	21		11	10
23	8月7日	普通救命講習	二宮中学校	19	19		5	14
24	8月18日	普通救命講習	二宮中学校	20	19	1	11	9
25	8月20日	普通救命講習	二宮西中学校	20	19	1	10	10
26	8月25日	普通救命講習	教育委員会(教職員)	5	2	3	1	4
27	9月13日	上級救命講習	消防本部主催	9	8	1	6	3
28	9月19日	普通救命講習	消防本部主催定期開催	24	17	7	4	10
29	12月1日	普通救命講習	心泉学園	8	4	4	2	6
30	12月19日	普通救命講習	消防本部主催定期開催	1	1			1
31	1月16日	普通救命講習	消防本部主催定期開催	2	2		1	1
32	1月19日	普通救命講習	星槎学園湘南校	16	15	1	9	7
33	1月22日	普通救命講習	星槎学園湘南校	20	20		15	5
34	2月2日	普通救命講習	生涯学習課嘱託員	18	1	17	15	5
35	2月15日	上級救命講習	消防本部主催	5	4	1	3	2
36	3月20日	普通救命講習	消防本部主催	1	1		1	
合 計				460	336	114	217	220

※ 普通救命講習修了者総数 4,435名(平成27年4月1日現在)

※ 上級救命講習修了者総数 264名(平成27年4月1日現在)

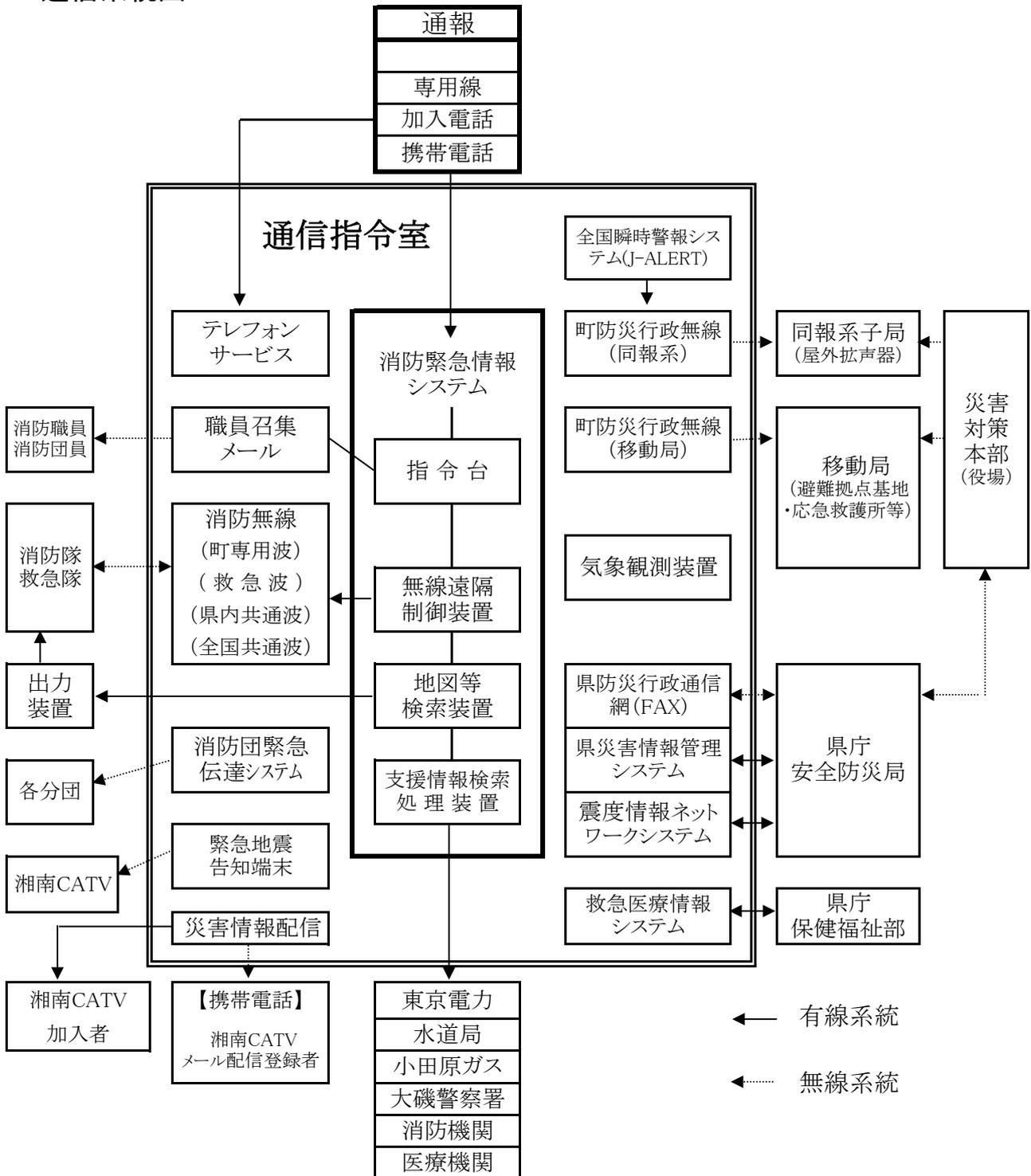
※ 普通救命講習再受講者数(平成26年度) 436名

※ 上級救命講習再受講者数(平成26年度) 14名

◇ 通信 ◇

通信指令室は消防活動の要であり、指令台を中心に火災報知専用電話(119番)のほか数多くの通信情報システムが配備され、災害出動指令や消防関係通信業務に24時間体制で職員が従事しています。

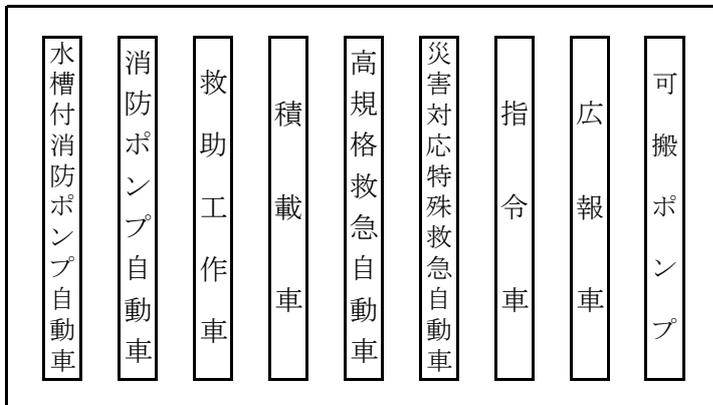
▼通信系統図▼



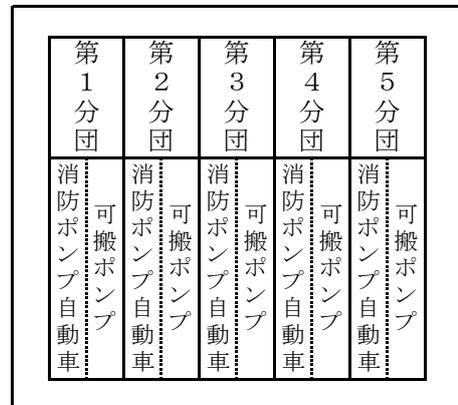
◇ 災害出動体制 ◇

各種災害通報は、火災報知専用電話(119番)等を通じて、すべて消防署通信指令室で受信します。通報を受けた指令員は、隊員に出動指令をかけ、状況により車両・資機材を選択した消防隊等が災害現場に急行します。また、災害の状況に応じて消防団を召集し、各関係機関に連絡しています。平成26年度には緊急消防援助隊用車両として、被災地でも十分な能力を発揮することができる災害対応特殊救急自動車を提供しました。

消防本部・消防署



消防団



▼ 救助出動体制 ▼

火災や交通事故、労働災害等の複雑化する都市災害から人命を守るため、救助工作車(平成18年度)を配備し、あらゆる災害に対処できるように訓練に臨んでいます。

救助資機材等

資機材名	数量	資機材名	数量	資機材名	数量
クレーン2.9t(車載式)	1	救命胴衣	9	耐電衣(一式)	3
ウインチ(車載式)	1	救命浮環	1	化学防護服(一式)	5
照明装置(車載式)	1	山岳救助器具一式	1	救助帯・安全帯	7
超高圧消火装置	1	送排風機	1	インパルス銃	1
油圧救助器具一式	1	エンジンカッター	2	フォグガン	1
削岩機	1	チェーンソー	2	簡易画像探索器(ボーカー)	1
発動発電機	1	単梯子(カギ付)	2	マルチガス測定器	1
空気式救助マット	2	三連梯子	3	防毒マスク	5
酸素切断機	1	バスケット型担架	1	携帯警報機(スーパーパス)	5
空気呼吸器	14	個人線量計	5	ガンマ線及びエックス線用線量率計	1

▼水防(自然災害)出動と体制 ▼

二宮町は、比較的大きな河川がなく、過去に水害による大規模な被害を受けたことはありませんが、集中豪雨や台風の際には河川の氾濫・道路冠水・土砂災害等の被害が発生する恐れがあります。このため、降雨時は雨量の把握に努め、早期に警戒体制を強化しています。

(平成26年中)

気象状況	回数	活動内容
大雨警報	14	情報収集等及び町内巡回
洪水警報	9	情報収集等及び町内巡回

水防資材(消防本部管理分)

(平成27年4月1日現在)

品名	数量	品名	数量	品名	数量
一輪車	3台	スコップ	40丁	土のう袋	9,000枚
水中ポンプ	1基	土のう用止め杭	460本	緊急用土のう袋	250枚
のこぎり	6丁	防水シート	68枚	ロープ	400M
カケヤ	10丁	大ハンマー	5丁		

▼緊急消防援助隊▼

緊急消防援助隊は、消防組織法第44条の規定に基づき、災害等による緊急時に消防の応援等を行うことを任務としています。東南海地震等の大規模災害への素早い対応を見据え、常日頃から派遣職員の人選や物資の確保及び資材の点検をして有事の際の対応に備えております。

▼消防相互応援協定▼

消防相互応援協定は、消防組織法第39条の規定に基づき、大災害等が発生した際に相互の消防力を補い、被害の軽減を図っています。この協定は、全国、県下、隣接市町などで締結され、航空応援・特別応援・通常応援等に区分されています。

《応援・受援状況》

(平成26年中)

応援市町		合計				小田原市				大磯町				その他				
		応援		受援		応援		受援		応援		受援		応援		受援		
出場回数	種別	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	特別	通常	
	火災・救助		13	1	4		8	1	3		5	1						
	救急		12	16	1		6	3	1		6	13						

被災市町からの要請が無い場合でも、互いに協力し出場する区域は次のとおりです。

《通常応援出場区域》

二宮町	平塚市
平塚市のうち土屋	二宮町のうち一色
二宮町	大磯町
大磯町全域	二宮町全域

二 宮 町	小 田 原 市
小田原市のうち小竹(中村川以東)・川勾・山西・東ヶ丘・中村原(県道中井羽根尾線以東)・羽根尾(東海道本線以南)・中井町井ノ口(県道平塚松田線以南)	二宮町のうち一色・百合が丘一丁目～三丁目・川勾・山西(梅沢川及び町道170号線以西)

《通常応援出場区域(自動車専用道路受持区域)》

二 宮 町	大 磯 町
小田原・厚木道路のうち、二宮インターから大磯インターまでの区間の上り線。 西湘バイパスのうち二宮インターから大磯西インターまでの区間の上り線。	小田原・厚木道路のうち、大磯インターから二宮インターまでの区間の下り線。 西湘バイパスのうち大磯西インターから二宮インターまでの区間の下り線。

二 宮 町	小 田 原 市
小田原・厚木道路のうち、二宮インターから小田原料金所までの区間の下り線。 西湘バイパスのうち二宮インターから国府津インターまでの区間の下り線。	小田原・厚木道路のうち、小田原料金所から二宮インターまでの区間の上り線。 西湘バイパスのうち国府津インターから二宮インターまでの区間の上り線。

◇ 消防水利 ◇

二宮町内の消防水利は、水資源の関係から大部分が消火栓で充足されていますが、市街地周辺部は水道管口径が細く、更なる消防水利の確保が重要となります。

消防水利の充実と震災時の対応のため、防火水槽の設置などにより水利不足の解消に努めています。

▼消防水利の現勢調▼

(平成27年4月1日現在)

種別 区分	水利 合計	消 火 栓			防 火 水 槽			そ の 他	
		小計	公設	私設	小計	公設	私設	プール	濠池等
基 準 数	409								
適 合 水 利	363	304	303	1	59	53(耐震16)	6(耐震5)		
充 足 率	89%								
現 有 数	453	377	376	1	74	68	6	2	

※ 適合水利とは、消防水利の基準に適合した施設数

消火栓は、直径150ミリメートル以上の管口径に取り付けられたものがふさわしく、また防火水槽についても常に40トン以上貯水されたものが消防水利として適しています。

※ 現有数とは、消防水利の基準にかかわらず全部の施設数

※ 防火水槽74基のうち21基が耐震性貯水槽

◇ 気 象 ◇

気象観測による情報は、火災の予防や消防活動全般に大切であるとともに、風水害などの予防や被害軽減のために重要な役割を果たしています。

火災は、気象条件と密接な関係があるため、気象条件によっては火災の規模や出火率も左右されます。

また、各種災害では、常に気象条件を考慮した活動が要求されるため365日、気象観測装置による観測を実施しています。

▼ 月別気象状況 ▼

(平成26年中)

種別 月別	気温(℃)			湿度(%)			風速・風向(m/s)			気圧(hpa) (標高 31m)			降雨 日数	降雨 量 (mm)
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最大	平均	最多 風向	最高	最低	平均		
1月	16.2	-3.3	5.6	98.8	11.8	60.1	14.3	1.4	西	1027	998	1015	5	35.0
2月	18.9	-2.1	5.3	98.3	11.5	58.0	22.8	1.6	北東	1029	996	1016	15	79.5
3月	22.8	-3.3	9.3	91.2	4.7	57.3	16.3	1.7	西北西	1028	984	1012	10	142.5
4月	24.1	1.4	13.3	89.8	14.6	61.7	14.4	1.4	南南東	1027	987	1014	12	130.0
5月	27.9	9.7	18.7	88.4	9.8	62.4	14.0	1.6	南南東	1021	990	1009	10	93.5
6月	32.1	17.1	22.1	89.6	22.5	70.1	12.1	1.3	南南東	1013	989	1005	11	256.0
7月	36.5	18.7	25.6	90.7	34.1	69.2	11.9	1.3	南南東	1016	988	1007	7	52.0
8月	36.6	19.8	26.9	97.3	43.8	75.7	14.6	1.6	西南西	1014	995	1008	9	62.5
9月	31.3	12.3	22.4	99.9	35.9	75.5	11.9	1.4	北北東	1021	998	1010	6	95.5
10月	30.0	8.2	18.1	99.9	37.0	80.2	17.7	1.3	西	1027	976	1015	9	408.5
11月	23.6	3.8	13.5	99.9	30.0	77.8	14.8	1.3	西	1026	996	1015	12	59.0
12月	17.2	-2.8	6.5	99.9	19.6	68.9	14.2	1.6	西	1029	988	1012	5	62.5
年	36.6	-3.3	15.6	99.9	4.7	68.1	22.8	1.5	西	1029	976	1011	111	1476.5

▼ 気象予報等発表状況調 (横浜地方気象台発表) ▼

(平成26年中)

種 別	月 別												
	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
大雨警報	14						5	1	3		5		
洪水警報	9						1	1	3		4		
波浪警報	22		2	2				2	8		8		
暴風警報	5										5		
大雪警報	4		4										
暴風雪警報	2		2										
大雨注意報	58		3	3	3	6	16	6	4	9	7		1
洪水注意報	53			3	2	6	17	6	4	9	5		1
強風注意報	276	33	25	40	20	26	16	15	24	8	19	12	38
波浪注意報	125	3	14	18	10	4	5	18	12	6	11	2	22
高潮注意報	16									11	5		
雷注意報	175	1	7	11	10	18	44	43	19	1	11	1	9
乾燥注意報	120	42	12	17	12	3					1	6	27
濃霧注意報	12		1			1	3	6					1
低温注意報	15	10	3										2
大雪注意報	4		4										
着雪注意報	8		8										
風雪注意報	9	1	8										
霜注意報	7				7								
竜巻注意報	0												
火災予防に関する情報	168	43	14	22	16	18	2	4		2	4	12	31
台風に関する情報	29								8		21		
土砂災害警戒情報	1										1		
雪に関する情報	13	1	9										3

▼ 過去5年間の気象 ▼

区 分	平成22年中	平成23年中	平成24年中	平成25年中	平成26年中
平均風速 (m/s)	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5
最多風向	西	西	西	西	西
降水量 (m m)	2066.0	1660.0	1814.5	1569.5	1476.5
平均気温 (°C)	16.0	15.7	15.7	16.1	15.6
平均湿度 (%)	75.8	71.6	71.1	68.4	68.1
平均気圧 (hpa)	1011	1012	1011	1011	1011

二 宮 町 消 防 年 報

平成 27年 9月 発 行

編 集 発 行 二 宮 町 消 防 本 部

〒259-0131 神奈川県中郡二宮町中里711-1
TEL(0463)72-0015(代)
FAX(0463)72-0117